「夫婦 DE全国漫遊顛末記」～夫婦旅行全県制覇達成～

南 部 昌 弘

2011 年 2 月 22 日水戸黄門漫遊記の出発点でもあり終着点でもある茨城県水戸市の偕楽園で夫婦旅行全国制覇を達成いたしました。４７都道府県に足跡を残せたことになります。

思えば昭和 43 年の新婚旅行の八丈島から数えて 43 年間の長い道程でした。

偕楽園を後にして昼食を大洗の海鮮市場の食堂が美味しいとの評判を聞きつけ、大洗海岸へと向かいましたが、その 21 日後の３．１１にあの大震災の大津波で大洗海岸は壊滅してしまったのです。今でも胸のつぶれる思いです。

今年で小生 73 歳、妻 69 歳となり、老い先短いと感じ始めた今日この頃、妻は膝の調子が悪くヒヤルロンサン等のサプリネントを常用し、医者から人工関節の手術を勧められている状態です。

結婚以来お互い旅行好きで、連休、夏休み等を利用して温泉に、グルメにとあちこち気ままに旅を続けていましたが、定年(１９９８年)後ふと指折り数えてみれば、全都道府県で足跡を刻んでないのは２４県ほど、がんばれが全県制覇できるのでは！とネジを巻き直して１０余年、昨年暮れで残るは埼玉と茨城だけになっていました。

埼玉は関西からすると観光名所、グルメ等の情報もほとんどなく、茨城も水戸の納豆くらいしか思いつかず、つい伸び伸びになっていたのが現状です。

しかし「お互い元気なうちに！」念願の全県制覇はを、と思い立ちました。水戸の偕楽園は梅の名所、ついでに埼玉にも足を伸ばして旅を完成させようと衆議一決、2 月 22 日が実現しました。もう少し遅れてあの大震災の後では水戸方面にはいまだに出かける気になっていたかと思うと感慨もひとしおです。

われながら 43 年間「よくぞ来たもんだ！」と感慨深いものがありますが、友人達からよく「夫婦で旅行して何が楽しい？」とか「喧嘩の種をつくるだけ！」とか半分馬鹿にされ続けてきました。

確かに海外旅行は別にしても夫は男友達、会社の同僚とゴルフに宴会に、奥様は女友達とおしゃべり、買

い物、グルメ三昧と、といったのが一般的です。
　われわれは異常なのか？
他の夫婦に比べて、われわれ夫婦は仲がよくて健康なのは確かでそれが最大の秘訣だとは思いますがそんな夫婦はざらにおられますよね。
そこで「夫婦で喧嘩もせず全国漫遊出来た」理由を分析してみました。

1、 好奇心が人一倍で相手の提案を否定しない！

新聞雑誌のツアー広告、テレビの旅番組等で出てくるグルメ情報、お得情報等は見逃さず、お互いに「あそこへ行ってみたい」「あれを食べたい」といえば直ぐに「行ってみよう」「食べに行こう！」と相談がまとまる。即断即決の行動力こそがわれらの真骨頂！
わが妻のありがたいことは、その折「ドレスが・・」「美容院が・・・」とか一切言わないことです。極端にいえば「着の身着のまま」「すっぴん」で何処へでもすっ飛んでゆく行動力があることです。
「今夜花火に・・・」と突然誘われても全然 OK。地方のお祭りなどに誘われ「奥様もどうぞ」と言われてお断りしたこと皆無。青森のねぶた祭り、徳島の阿波踊りも地元の連などに交じり踊らせていただくという得難い体験もさせていただきました。

2、 あらゆるコネを活用し「いかに安く」「いかにオイシイ情報を手にいれるか」に骨惜しみしない

　出かける先が決まれば、友人、知人、得意先等のネットワークを駆使して、友人の別荘、自分の会社は勿論得意先の会社の保養施設等を徹底的に利用し、現地の人に「美味しいお店」を紹介してもらい、格安ツアーは見逃さず、それらをうまく組み合わせて旅行プランを組上げる、それがまた醍醐味です。
そのためには日頃から、年賀状、お中元、お歳暮は欠かさず、お礼状も欠かしません。我が家にお招きして妻の手料理でお持て成しすることもしばしば。幸い妻は料理が得意で持て成し上手。
しかし多くの方々にご迷惑をおかけしたのも事実です。
そんな罪滅ぼしも兼ねて、定年後石川県の能登にセカンドハウスを建て南なん亭とハウスネームを名付け、10 年間で 200 人以上の方々（お世話になった方々を中心に）をお招きし、女房ともども心づくしのおもてなしをして、お客さまの能登を中心とした北陸観光の拠点にしていただいています。

3, 趣味も同じ、運転も交替で

昔から映画とか音楽も同じ趣味で「越路吹雪」や「高橋真梨子」のコンサートにはよく出かけ、女房の勧めで 40 歳からスキー、スケートに挑戦し、白馬、札幌には毎年出かけたりしましたが、特に定年後今度は逆に女房にゴルフを勧めたところすっかりはまってしまい、女房の方からゴルフツアーを持ちかけられる始末。うれしいやら、いやはや・・・。
ゴルフツアーだけでもこの１０年ほどで２１道府県にのぼるほどです。お陰で小生４年前にゴルフ場の全県制覇を達成できました。
女房殿の運転歴も 40 年を超えた大ベテラン。われらの旅行には車が欠かせません。
数年前には朝伊丹を発って、博多でレンタカーを借りて佐賀でゴルフ、その足で長崎のハウステンボスまで足を伸ばし、翌日は長崎でゴルフ、終わって九州自動車道を横断して別府の会社の保養所に入るという「老年カップルにあるまじき」離れ業もいたしました。
　離れ業といえば、3 年前東北旅行に出かけた折、帰りの便の時刻を勘違いして（年取った証拠）気

仙沼を出た時点で仙台空港まで１時間半しかなく、東北自動車道をぶっ飛ばし、空港にギリギリ滑り込んだ「事件」がありました。二度と繰り返したくない苦い思い出です。その折女房の突然の（いつものことですが）希望でコースを変更、石巻、宮古をパスせざるをえず、今となっては残念です。

4、会社の担当業務の関係で全国の生の現地情報を得てグルメ三昧

全国の販売会社の販売促進をマスコミ宣伝で応援する仕事やネオン戦略で全国を飛び回り、またメディア戦略で各地の新聞社、テレビ局等とは日ごろから親しくお付き合いし、逆に当社の商品（放送機材等）を地方局に売り込むお手伝い等で度々現地の営業マン達としばしば交流、「現地ならではの情報」はお手のもの、それらを小まめに拾って夫婦の旅に生かしたものです。

ホテルからタクシーに乗り「どこそこのお店」といえば運転手さんがどうして地元の人しか知らないそのお店を知っているのか？と不思議がられたこともたびたびありました。なにしろ我われの旅はどこに行くにしろ「どこで何をたべるか？」が旅の第一目標なのです。そのためには少々の辛抱と努力を惜しみません。

「食べること」に関しては二人ともこだわりが人一倍で、礼文島のウニが食いたくてはるばる利尻、礼文まで出かけたりしました。その割に貧乏性で３０００円のウニ丼にオソレをなして、ウニ丼とホッケの開き定食を半分ずつ食べたりしました。

４３年間の旅でグルメ N03 は①北海道の網走港でレンタカーの中でつついた「揚げたて茹でたての花咲カニ」、②和歌山と三重の県境の瀞峡の中洲で食べた丸まると脂の乗った「アユの塩焼き」、③　三重の鳥羽港で目の前で生きた伊勢エビを割り塩で焼いた「伊勢海老の残酷焼き」に尽きます。

こう見てくると、野外で生きた素材を塩だけのシンプルな味付けが至高のグルメと言えそうですね。

閑話休題４３年間の旅の思い出の数かずをお話しさせていただきます。

●「奥様は方向音痴」のお話

わが女房殿は超の付く方向音痴、当時ナビなどという文明の利器など普及しておらず、助手席で地図と案内板を見ながらのナビをしていただくわけですが、全く反対の方向を指示することなど日常茶飯事。

しかしたまにはそのおかげで、思いもかけず趣のある野仏や名刹に遭遇し感激したりしたもんです。

まさに「知らぬが仏」の気ままな旅。旅の楽しみはそんなところにもあるもんです。

方向音痴といえば迷子の思い出もあります。

山形の蔵王に出かけた折、蔵王のお釜を見にロープウエィで上がったところ、下山近くなって霧が発生し、不幸にもハグレテしまいました。あちこち探しましたが見つからず、先に下りたものと下りてみたが見つからず、また元に戻るという動作を繰り返しましたがわからず終い、遭難救助を求めようと関係者にお願いしている時に幸い霧が晴れてきてひょっこり現れ胸をなで下したことでした。

遭難といえば、白馬にスキーをした折もまさに遭難寸前でした。

先に述べたように女房殿に勧められ４０歳からの手習いでボーゲン、斜滑降のまねごとがやっとできる小生と方向音痴の女房（スキーの腕は２級並）が夕暮れ時中腹まで下りてきた時突然吹雪になり、コースを外れてしまいました。途方にくれながら転げ落ちるがごとくさ迷っていましたが、幸運にもまったく別のゲレンデに下り立ち九死に一生をえた心地がしたものです。

●温泉地でのあれこれ

温泉もあちこち訪れましたが印象に残っているエピソードをいくつか述べておきます。

1、　白骨温泉

訪れたのは昭和４０年代の後半、まだ世間にあまり知られていない秘湯ということで旅館も数少

なく、佇まいも「いかにも」という感じで裸電球の下の板張りの床もぬるぬるし、休日にもかかわらず客もまばら。しかし温泉は白濁、ぬるぬるでまさに「秘湯!」という感じで大感激でした。
偶々その時運悪く腹の調子が悪く、旅館の夕食はパスしひたすら温泉でお腹を暖めていました。翌朝特別に作っていただいたお粥がとても美味しかったのが今も懐かしく思い出されます。
　後日得意先の若い社員から結婚したが子供ができないので、いい温泉を知らないかと相談されたので白骨温泉を紹介したところ、「できました！」との喜びの報告を受けましたので霊験あらたかだったのでしょう。

2、 成川温泉

　知人夫婦と四万十川に沿って松山に向かう途中、山の中の一軒家の成川温泉に１泊しました。
川沿の狭い石ころだらけの山道を苦労しながらやっとたどり着いたのはすでに夕闇は迫っており、はやく暖かい温泉に浸かりたい、早く夕食にありつけたい、と安堵したところ、「しばらくお待ちください」とのつれない返事。聞けば地元の寄り合いの宴会が長引き部屋に案内できないと。旅館について待ちぼうけを食わされたのは数々の旅の中でも最初で最後でした。
それでも温泉の質は最高で、白い湯の花がいっぱい浮いていたのが印象的でした。

3、 吉岡温泉

　やはり同じ知人の別荘が鳥取にありお邪魔した折、近くの吉岡温泉に夕食前におとずれました。
　温泉そのものは鄙びた田舎にふさわしい設えで、とりたてていうほどのものではありませんでしたが、たまたま出くわした宴会に出ていた芸者さんの姿に驚きました。昭和５０年代でしたが当時はまだ芸者さんといえば若い美人というイメージでしたが、なんとそのお姐さん方は全員７０代後半のお姿でした。
　後から思えば日本のこれからの「過疎化」と「高齢化」を暗示する衝撃的な光景でした。

4、 浅間温泉

　白馬にスキーに行く途中松本の近辺の浅間温泉に立ち寄った宿がことのほか印象深いものでした。お舅さんとお嫁さの二人で切り盛りしているような小さな宿で、旅館に泊まるというよりは知人の家でお持て成しを受けているといった雰囲気で、料理も心のこもった家庭料理でした。浴槽も部屋のすぐ横にあり本当にホッコリした思い出深い温泉宿の一夜で、今でもあればもう一度訪れたい宿でした。

5、 金太郎温泉

　白馬に別荘を持っている知人夫婦と立山で落ち合おうとした折、「どこかで前泊を」と知人に紹介されたのが魚津の金太郎温泉でした。今でこそそこそこは知られていますが、当時は聞きなれない変な名前だなと不安な思いで魚津 IC を下り、教えられた道を行けども温泉がありそうな山道にはならず、行けども平地ばかり。不安に駆られる中突然田んぼの真ん中に大きな建物が出現。それが金太郎温泉でした。聞けばこの建物は東京オリンピックの折の代々木体育館を移設したものとか。

田んぼの中に温泉宿ならぬ建物、おまけに宿の中はスリッパではなく靴下を支給され、なんとも妙な感覚を味わいました。また浴槽も女湯が男湯の上にあり、女湯から男湯が覗ける位置になっている。何からなにまで驚かされたものでした。

6、城崎温泉

阪神淡路大震災の後、我が家も半壊という被害に遭いましたが、少し落ち着いたころ、新聞などで城崎温泉が観光客が激減して困っている。カニの季節にも拘わらず相場が下落しているとの情報をえて、食いしん坊の虫が疼き人助けにもなるので城崎温泉に行こうと衆議一決し出かけることにしました。金曜日の夕方大阪駅から JR に乗り二人分の席を確保したうえ、時間を示し合わせ、宝塚で女房を拾う予定

でした。ところが当時阪神間はJRが不通で、大阪から神戸に向かうひとがJR宝塚線（以前の福知山線）の和田山周りでしか行けず、大阪駅で超満員、女房の席など確保するどころでなく、宝塚で乗れたかどうかも分からず不安なまま和田山駅に着くや、ガラガラになった車中を走りまわってやっと女房を発見安堵したものです。
おかげで宿では大歓迎！好物のカニをたらふく食べさせていただき大満足でした。
今回の東北大震災でも現地は大変困っておられる様子。是非可能な方々は現地観光等にお出かけいただきたいものです。必ず「いいこと」が待っていますよ。

7、 登別温泉

昭和４０年代の若かりし頃の思い出ですが、北海道の登別温泉での思い出。
ご存知のように登別は混浴です。しかし女風呂はあります。一応男女に別れて入りました。大浴場は大きな建屋に湯壷がたくさんあり、誠にゆったりとしていて噂にたがわぬ豪快さです。鼻歌交じりにのんびり疲れを癒していると、湯けむりの先を突然一団の女性軍が乱入してきました。あわてて湯船に体を沈めながらよく見ると、先頭に立って入ってきているのはわが女房殿ではありませんか！４，５人入っていた男性軍は我がもの顔に振舞う彼女たちを正視もできずただこそこそ退陣するのみでした。

後で聞くと、女風呂はあまりにチンケで逆に大浴場は広々していてその差別に耐え切れず、たまた覗いたところ強面のオニイサンはいないようなので、皆で衆議一決乱入の運びとなったそうです。いざとなったら女性は強い！とつくづく感じ入った次第です。

●天草旅行の思い出

全国数々旅の思い出はありますが、ただ一つ心残りの旅が天草でした。

昭和５１，２年の頃と記憶していますが、何かの情報で「天草の夕日が絶景」というのを聞き、丁度新車に買い替えたのと中国自動車道が開通していたので、５月の連休を利用して往きはフェリーで別府まで、帰りは中国道でとのスケジュールを立て天草旅行にで出かけたものでした。ところが長崎の茂木港からフェリーに乗る頃から台風並みの猛烈な低気圧に見舞われ、やっと出港したフェリーは大しけで女房は船酔いでダウンする始末。上陸してドライブ中に昼飯をと探すが当時のことで適当なコンビニもなく、ファミレスもない。「襟裳岬」ではありませんが、「なにもない♪・・」天草でした。やっと食堂らしき店を見つけて出てきたのは「干からびた真黒なおでんらしきもの」。到底食えるものではなく、ほうほうの体で退散しました。肝心の夕日も見られず、不味いおでんに、大しけ船酔いと天草の第一日は散々でした。未だに悔しさでいっぱいです。

翌朝昨夜は気づきませんでしたが、なにげなく朝食の席について驚きました。部署は違えど会社の先輩のご家族との偶然の鉢合わせ。
はるばる天草くんだ入りまで来てハチアワセ！とは・・・。当時不倫ブーム―のハシリだったので先輩とお互い「本物の女房でよかったね」と笑い合ったものです。というのもその先輩は社内でかなりの「好きもの」で通っていましたから。（先輩ごめんなさい！）(笑)

宿を出てしばらく行くと、大きな都会では見られない見事な鯉のぼりの下で楽しげなご家族に出会いました。おそらく初孫を祝っておられたのでしょう。ほんとうに可愛い男の子でした。名前を聞いたが忘れてしまいました。最近になり、その男の子がどうしているか気になり「探偵ナイトスクープ」に「探偵さん探してください」と投書しようかなどと話しています。
「鯉のぼり」といえば、ある時、四万十川の上流の十和村に川を横断する数十匹の鯉のぼりの写真を見て「それ！っ」とばかり駆けつけ、帰りに高知市内の「司本店」で食べた「かつおのたたき」は最

高でした。「新宿店」「梅田店」より美味かった！です。

話は戻りますが天草での旅の途中で食べた「からしレンコン」が大変旨くて、土産に買って帰りましたが全然味が違ってガッカリでした。やはり旨いものはご当地で食べるに限る！との教訓です。

●最後に

みなさまから「全国回ってどこが一番よかったか？」とよく聞かれます。

都道府県でいえば、やはり北の大地「北海道」を置いてほかに並ぶものはありません。

北海道は現役時代から今に至るまで十数回旅して全道くまなくといっていいほど観光、温泉、ゴルフにスキーにと訪れ、カニ、ウニ、ニシン等美味い物も食べつくした感もあります。

冬のサッポロ雪まつり、夏の旭岳、層雲峡、富良野・美瑛のパッチワーク等思い出深い景色ばかりです。

心残りは大沼でのゴルフです。以前に函館も大沼湖も訪れた時は妻がまだゴルフをしていなかったのです。

いつの日にか大沼プリンスホテルのロッジに泊まり、北海道 GC の大沼コース、と大沼プリンスコースを回ってみたいと二人で話し合っています。

そのほか心残りは尾瀬と白神山地を訪れたことがないので今後の課題にしています。

今年の心づもりとしては、以前ヨーロッパ旅行で知り合い、二本松に住まわれていて会津若松を案内していただいた Y さん訪ねて福島を訪れ励まし、地元に少しでも貢献できたらと思っています。

いずれにしろ、二人の健康がいつまで続くかの問題です。

日々の規則正しい食生活と適当な運動を続け、これからも全国あちこちグルメを求めて行脚したいと念願しつつ筆を置きます。

長々おお付き合いいただきありがとうございました。

平成２３年夏

了